

# 島根観光振興に大賞

## 松江ツーリズム研が創設

松江市の観光振興を手掛けるNPO法人松江ツーリズム研究会(山本素久理事長)が、島根県の観光振興に大きく貢献した県内の団体、個人を顕彰する「松江ツーリズム研究会観光大賞」を創設する。毎年1回選考し、大賞受賞者に賞金100万円を贈る。顕彰制度をてこに、一層の観光振興を後押しする。

顕彰候補は4月以降に公募し、選考委員会での審議を経て8月に大賞を決める予定。制度の運営を行う団体として、一般財団法人松江ツーリズム研究会基金(山本素久理事長)を22日設立した。評議員は島根大法文学部部長の田坂郁夫教

## 賞金100万円 団体・個人を顕彰

授ら4人、選考委員は島根県立大短期大学の工藤泰子教授ら5人で構成する。顕彰の原資となる基金(拠出金)は、NPO法人の同研究会がこれまでの事業で得た利益剰余金を充てる。当面は5500万円とし、7千万円に増やす。

同研究会は、個人・小グループでの旅行ニーズの高まりに対応し、地域資源を生かした現地発着のツアーで旅行者をもてなす「着地型観光」の態勢を松江で整えようと、2005年10月に設立。小泉八雲が再話した怪談の地を巡る「松江ゴーストツアー」や、松江城周辺を案内する定時ガイドなど数多くのメニューを定

着させ、旅行者の満足度アップに貢献してきた。

一方で、06年度からは松江城や小泉八雲記念館、カラボコ工房など、観光都市・松江を支える施設の指定管理事業を展開。サービス向上に努めた。

観光大賞の創設は、3月末でカラボコ工房以外の指定管理事業から退くのに合わせて計画。利益剰余金を島根の観光振興に還元し、より多くの観光客に喜ばれる地域づくりを支える。

観光振興を対象に、高額賞金を贈る顕彰制度は全国でも珍しい。山本理事長は「観光大賞が起爆剤になり、島根の観光振興と地域の発展につながればうれい」と話した。

(石川麻衣)

## 島根県立大短大部 志願倍率5倍超に

18年度一般入試  
島根県立大短期大学部(松江市浜乃木7丁目)は24日、2018年度に再編する同学部の一般入試の志願状況を発表した。定員40人(前年度98人)に対し、出願者は218人(同349人)で、倍率は5・45倍(同3・56倍)。四年制学

部の新設による定員減に伴い、倍率が跳ね上がった。学科別で保育の出願者が前年度より39人増えた。

保育は定員20人(同28人)に対し、出願者が99人(同60人)で、倍率は4・95倍(同2・14倍)。総合文化は定員20人(前年度は1、II両日程計70人)に対し、出願者が119人(同289人)で、倍率は5・95倍(同4・13倍)となった。

推薦を含めた18年度の短期大学部の全定員は80人。再編して新設する四年制の人間文化学部は110人と

なる。

(勝部浩文)

両県4大学

# 島大総合理工前期0.2倍

## 2次試験出願中間集計

### 島根県立大 新設 人間文化も出足低調

山陰両県4大学は28日、2次試験の出願状況の中間集計(午後5時時点)を発表した。理系2学部を再編する島根大は前期日程の総合理工(募集員233人)が0.5増減の0.3倍。島

根県立大が新設する人間文化学部も低調な出足となった。出願は31日まで。

(26面参照)

6学部ある島根大の前期日程(同678人)の倍率は前年同期比0.4増減の0.3倍で、後期(同195人)は1.2増減の1.1倍。再編する総合理工、生物資源科学の両学部計10学科の前期日程はいずれも

0.5倍未満で、生物資源科学部の生命科学科(同46人)と農林生産学科(同38人)の0.4倍が最も高かった。

人間科学部の後期(同10人)は13.7増減の1.8倍だったが、前後期合わせた学部別で最高だった。医学部医学科(同62人)の前期は1.4倍だった。島根県立大短期大学部の

一部四年制化に伴い新設する人間文化学部は、前期日程の保育教育学科(同20人)が0.4倍、地域文化学科(同30人)が0.2倍だった。

鳥取大は医学部医学科後期が最も高く5.4倍。鳥取環境大は前期A方式(同110人)で0.1増減の0.6倍だった。

(曾田元気)

予定の生徒、学生の17年12月末時点の就職内定率をまとめた。大学などは、島根県が前年同期比0・5%増の83・6%、鳥取県が1・2%増の85・9%。高校は島根県が0・5%増の92・1%、鳥取県が2・2%増の95・3%だった。

大学などは、島根県が就職希望者2049人に対し、内定者が1712人。鳥取県が希望者2077人、内定者1784人だった。

島根県の内訳は、大学・大学院が0・2%増の88・3%、短大・高専は3・9%増の83・1%、専門学校・職業能力開発学校は0・9%減の77・7%だった。鳥取県は大学・大学院が2・3%増の88・0%、専門学校が1・0%減の76・2%。短大と高専は1校ずつしかないため、非公表とした。

高校は、島根県が就職希望者1376人に対し、内定者が1267人。鳥取県が希望者1188人、内定者1132人だった。鳥取県の内定率95・3%は、記録が残る1994年以降、同時期として過去最高だった。

大学など就職内定率  
島根83.6%、鳥取85.9%

労働局12月末まとめ

鳥根、鳥取両労働局は2018年春に鳥根、鳥取両県の高校、大学などを卒業

(堀江玄)